

朝日庄内プロジェクトの改訂

前号でお知らせしていた「朝日庄内プロジェクト」の改訂について、第3回「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会（座長・小野寺弘道山形大学農学部教授）において了承されました。

新プロジェクトでは、生物多様性の把握とその適切な保全をより考慮するとともに、これまで進めてきた朝日山地森林生態系保護地域の保全や鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備、庄内海岸林や高館山の保全活動、



庄内森林管理署で実施した第2回検討委員会

朝日自然塾の更なる充実に

向け、これまでご協力いただいていた方々に加えて、生物調査に取り組む団体などの参画を要請するとともにサポーターの募集なども行い、新たなネットワークを構築することとしています。同時に地方自治体等の関係機関などとの情報の共有、ネットワークの強化を図ってまいります。

引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

なお、2月4～5日に秋田市の東北森林管理局で行われた森林・林業技術交流発表会において、この取り組みについて局内外の方々に広く紹介しました。



発表する庄司卓矢自然再生指導官

秋季巡視員会議を開催

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議(秋季)が平成21年12月12日(土)に鶴岡市(旧朝日村)の「朝日山村開発センター(すまいる)」で開催され、巡視結果等に対する意見交換が行われました。

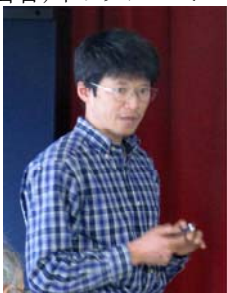
出谷川のブルーシート回収やカシノナガキクイム



シやウエツキブナハムシの被害に対する情報交換のほか、保護地域周辺のスノーモービル乗入れに対して反対・容認双方の意見が交わされました。

会議終了後は第2部として、山形山岳連盟のヒマラヤ遠征に参加しヤラシャンポ登頂を果たした小国山岳会の吉田岳氏から「チベット未踏峰から日本の野山へ」と題して講演いただきました。最先端の登攀から身近な野山に向けた氏の思いに参加者全員興味深く聴き入っていました。

講師の
吉田岳氏



鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生活動

植生モニタリング結果について

昨秋10月17日（土）に行った植生モニタリング調査結果の概要を報告します。

この調査は、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生8名のご協力をいただき、発生稚樹を把握するために設定した4プロット（森林再生ゾーン〔刈払区①、対象区②〕、自然推移ゾーン〔③、④〕）と、植栽したブナ等の稚樹について実施したものです。

調査結果をみると、森林再生ゾーンの発生稚樹は、前年同様30cm未満のスギが大半を占め、プロット内の調査



結果からは刈払いの効果は未だ認められません。しかし、プロット外には刈払い後に急速に成長した樹木も少数ながら認められます。一方、自然推移ゾーンでは、31cm以上が9,500本/ha、61cm以上が4,500本/haと生長した稚樹も多く見られ、順調な更新を示しています。

また、植栽木の調査では、前年植栽木の被害率は前回調査時の92%から80%に減少、正常活着率は同59%から72%に増加、枯死率は同7%から23%に増加、平均苗高は同35cmから34cmと、上長成長は見られませんが安定した状態となっています。一方、当年植栽木の被害率は18%、正常活着率は97%、枯死率は0%、平均苗高は53cmと前年植栽木より良好な結果となっており、植栽苗の樹高や根系の発達が良好であったこと、客土の肥料成分を抑制したことが影響したものと考えられます。

今後も、モニタリング調査による検証を続けながら森林の再生に向けた取組を実施していきたいと思います。



自然推移ゾーンの調査

センサーカメラに写った動物たち

土湯の森周辺の動物相を把握する目的で平成21年6月2日～9月30日までセンサーカメラを設置しました。撮影された動物たちの一部をご紹介します。



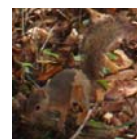
カモシカ



ツキノワグマ



テン



リス



タヌキ



ハクビシン



ノウサギ



アカネズミ

「土湯の森づくり」看板を設置

12月4日、最上川スキー場跡地に「土湯の森づくり」の看板が設置されました。



朝日自然塾連絡協議会を開催



セミナーハウスで行われた連絡協議会

11月27日（金）、朝日自然塾を企画運営する朝日自然塾連絡協議会が西川町大井沢のセミナーハウスで行われ、来年度の計画などが協議されました。

平成21年度の実施状況等の事務局説明に対し、「学校行事でやりたいところもあるようなので声をかけてはどうか」「自然の家との連携は続けるべき」などのご意見をいただいたほか、個々のプログラムについて論議がおこなわれました。

このほか、それぞれのプログラムについて内容や時期について検討を行い、22年度のプログラムを決定しました。また、必要に応じて当初プログラム以外にも、関係者と相談しながらプログラムを追加するなど弾力的に実行することについても了承を得ました。

クロマツシンポジウムで活動報告



発表する庄司友治自然再生指導官

11月28日(土)酒田市の東北公益文科大学の公益ホールにおいて第5回クロマツシンポジウムが開催されました。NPO法人「庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」が「出羽庄内公益の森づくりを考える会」などと連携して毎年行っているもので、今回は同NPOが活動を開始して10年を迎えることから「**あれから10年。今、森づくりの歩みを振り返る。そして、クロマツ林第2章へ**」をテーマに、酒田市民、森林ボランティア団体、林業関係団体、学校関係者など百名を越える参加を得ての開幕となりました。

カントリーフォークバンド「日和山楽団」の演奏や「庄内出羽人形芝居」などの後、庄内海岸林での森林保全活動報告として、当センターも「朝日庄内プロジェクトにおける庄内海岸林の保全活動」と題して①森林整備ボランティア活動支援、②森林整備活動、③森林環境教育などについて写真を使って発表しました。

みどりの保育園を支援

遊々の森協定締結

酒田市の社会福祉法人「西荒瀬保育園」と森林管理署との間で「遊々の森」協定が締結されました。

西荒瀬保育園は、平成19年から当センターと連携して「保育園児の森林環境教育」に取り組んでいます。今回の締結は「更に学習効果が発揮できるように専用フィールドが欲しい」との保育園からの要望に応じて実現したもので、当センターは保育園と森林管理署の調整役を務めました。

今回設定した「遊々の森」は新林(しんばやし)国有林にあることから、「しんちゃんの森」と名付けられました。これにはアニメの「クレヨンしんちゃん」のように園児達がたくましく育って欲しいとの願いも込められているそうです。

来年度からは、新しいフィールドを活用した森林環境教育を通じて、将来を担う子ども達に「人間形成のスタート」として

の人材育成に貢献できればと考えています。



門田理事長と握手をかわす植松森林管理署長

クロマツの歌を合唱

2月15日(月)、酒田市の西荒瀬保育園において、「クロマツの歌」などのミニコンサートが行われました。これは昨年11月に行われた「クロマツシンポジウム」で日和山楽団の演奏を聴いた保育士の先生達の「園児にも歌わせたい」との要望に応えたもので、歌唱指導は、山形県庄内支庁森づくり推進室長補佐で、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会会員、「日和山楽団」メンバーでもある梅津勘一氏にお願いしました。

参加した年長組と年中組の62名は2回の練習でメロディを覚え、3回目には全員大きな声で元気いっぱい「クロマツのうた」を合唱しました。



歌唱指導する梅津補佐

森の遊えんちを支援



中台池周辺で行われた 森の遊えんち

2月20日（土）、大雪原のブナの森で森の遊えんちが開園しました。あさひむら観光協会の主催で湯殿山スキー場の中台池周辺で行われたもので、当センターからも3名がスタッフとして参加しました。

小雪混じりの生憎の天気でしたが、かんじきを履いて元気にブナの森へ出発。かんじきでも腰まで沈む新雪をこいでブナの森を目指しました。



かんじきでラッセル

森の中では、巣箱の調査やソリ、ターザンブランコで楽しく遊びました。「森の遊えんち」は昨秋にも行われましたが、続けて参加した子供たちは、同じ森の様子の違いに驚くとともに、特にハシゴで高く掛けた巣箱が低いことで雪の深さを実感したようでした。

帰りは、リフトで登ったスキー場をかんじきで下山。



Cafeでほっと一息

最後にヒュッテであたたかいおしるこ等をいただき、閉園となりました。

この「森の遊えんち」は、3月13日（土）にも実施される予定です。

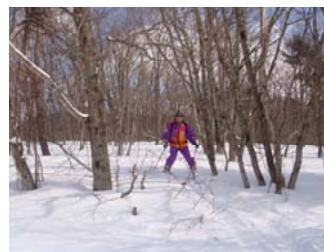
山スキー技術講習会を実施

2月23日～24日に上市坊平スキー場及び周辺で山スキー技術講習会を実施しました。山スキーツ



深雪の中の登坂

アーガイドの山川喜市氏を講師に、センター職員3名が森林内の歩行・登攀・滑降の技術を習得しました。スノーモービル実態調査など今後の雪山の巡視に成果が期待されます。



林間を慎重に滑走



シール装着



発行

東北森林管理局
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合3

TEL：0235-58-1730 FAX：0235-58-1731

E-mail:t_syounai_f@rinya.maff.go.jp

Home Page:

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

編集後記

▲2月下旬、ふれあいセンター向かいの山にクマタカが来訪。巣は近くにはありませんが陽気に誘われてか、親子でのんびり滞在していきました。繁殖するなら忙しい季節ですが、今年は去年生まれの子の養育に専念するつもりの様です。一羽を大切に育てるのが奴らしさ。またおいでと見送りました。

▲昨年7月まで指導普及課長を勤め、ふれあいセンター開所以来何かとご指導いただいた高倉利弘国有林野管理課長が12月29日お亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りします。